

第6回理事会議事録

(第 回)

財団法人 神奈川県スキー連盟

1. 日 時 平成14年4月13日(土) 13:12～17:27
2. 場 所 神奈川県社会福祉会館 2階 第1会議室
3. 出席理事 会長：河野 洋平、副会長：廣瀬 稔、小林 幹夫、古郡 敬一
専務理事：山田 隆、常務理事：片 忠夫、三塚康雄、菊地富士夫
越前谷芳隆
理事：早川 博基、野地 澄雄、平沢 幸一、上田 英之、本田 衛義、
柴田 秀一、内海 雄三、百海 廷、渡辺 三郎、山本 英雄、
菊池 勇二、木村 徳善、工藤 政蔵、栗田 謙悟、本宮 敏宏
(現理事数24名)
うち委任：河野 洋平、小林 幹夫、越前谷芳隆、野地 澄雄、渡辺 三郎、
山本 英雄、菊池 勇二、本宮 敏宏(8名)

出席監事 徳田 盾夫

出席参与 なし

4. 議長選出 山田専務理事を指名
5. 議事録署名人選出 野地理事、早川理事を選出
6. 書 記 守谷紀幸広報委員を指名
7. 議 事

1) 佐々木SAJ理事あいさつ

諸般の議事に先立ち、佐々木SAJ理事から最近のSAJの状況報告並びに来期への決意等について発言があった。また、SAJ登録証の発行遅延に対する改善努力について言及があった。

本連盟登録担当理事より、二重登録の問題について質問があり、善処したい旨の回答があった。

2) 報告事項

(1) 事業報告等について

①教育本部関係

三塚教育本部長から、次の事業につき報告があり、特に準指検定については、微かな減少傾向が見られ、今後も継続していけるだろうが、大きな減少につながらないよう来期もがんばりたい旨発言があり、了承した。

ア 五竜行事Ⅱ

イ 車山行事Ⅲ

ウ 準指導員検定会

エ 五竜行事Ⅲ

オ 車山行事Ⅳ

カ 第38回全日本スキー技術選手権大会

キ 第1回環富士山スキー技術選手権大会

ク 車山行事Ⅴ

②競技本部関係

菊地競技本部長から、次の事業について報告があり、モーグルの大会やスノーボードのFIS公認大会の成功は関係者にとって大きな自信となったので、予算をかなりオーバーしたが、来年も是非開催したい。また、国体の成績が予想以上に悪く、社会人の有名選手の発掘等を行い、競技力の向上を図りたい旨の発言があり、了承した。

ア アルペン部

- i 第3回クラブ対抗アルペン競技会
- ii 第57回国民体育大会
- iii 第53回県総体
- iv 第60回神奈川県スキー選手権・技術系
- v 第17回野辺山杯スラローム
- vi SAJB公認関東選手権
- vii SAJB公認南関東ブロック野辺山スラローム
- viii 競技力向上ジュニア合宿
- ix 全国中学校スキー大会（役員派遣）
- x セッター検定（B）

イ ノルディック部

- i 第60回神奈川県選手権（中止）
- ii 第2回歩くスキー兼級別テスト
- iii 競技力向上選手強化・国体事前合宿

ウ フリースタイル部

- i SAJB第3回神奈川県モーグル競技会
- ii 第3回神奈川県モーグル記録会

エ スノーボード部

- i FIS公認南関東スノーボード選手権
- ii 第2回スノーボード技術選手権大会
- iii SAKスノーボード指導員養成講習会
- iv SAKスノーボード指導員検定会
- v SAKスノーボード指導員研修会

③総務本部関係

片総務本部長ほか各担当理事から次の事項について報告があり、それぞれ了承された。

ア 北海道行事（百海理事）

4月19日に、プロジェクトを含めた行事全体の反省会を行うので、それ以降の理事会で報告したい。

イ 慶弔関係

なし

ウ 登録関係（柴田理事）

2月末で、一般登録者数6,266名で、追加分を入れても昨年の最終登録者数より60名程度の減少になる。中学生、高校生についても同様の減少が見られる。SAJ競技及び教育資格者については、別紙資料のとおり。所属団体は、276団体で増加している。

三菱重工相製スキー部の根本英悟氏からJSBAのA級インストラクター及びC級検定

員より S A J スノーボード指導員への移行の申請書が提出され S A J に送付したとの報告に対し、佐々木 S A J 理事から移行手続きは昨年の 12 月で終了しているが、前年に資格取得した者については経過措置で移行できるよう評議員会で意見を出せば了承されるであろうとの発言があり、山田専務理事が南関東ブロック会議で議題とすることとした。

また、今季の S A J 会員登録に関連して、10 月に保険込みで会員登録を申し込んだ者が、協会担当者のミスで保険なしで登録されてしまい、1 月末に会員証がきたときにやっと気がついて問い合わせがきたというケースがあった。シーズン前に会員証がくれば事前に対処できるが、シーズンインしてからでは、保険だけに大きな問題になりかねないと担当理事から報告に続いて、山田専務理事から、全日本の管理状態が改善されない限り、来年度からの全日本の保険の勧誘はしないという方針にしたいとの発言があり、了承された。

エ 各種委員会

i 広報委員会（内海理事）

S A K だより第 43 号を今月末に発行し、連休前に各クラブに送付する。276 クラブで 40 数万円の送料の支出となる。同号発行のために 8 回の作業部会を開催し、さらに 2 回の開催を予定している。

次に、専門委員の派遣ということで、教育並びに競技本部行事に、S A K だよりの取材を兼ねて広報委員を派遣し、現地では総務委員ということで行事に協力した。また、行事の報告をホームページに即時に掲載し、好評を博している。

予算的には、130 万円の予算に対し、S A K だより 2 号の発行とベスト作製、ロゴマークの製作等を行って、約 10 万円の剰余金ができる予定。

ii ハンディキャップ委員会（片総務本部長）

委員会のメンバーが一生懸命やっていて、先日の車山行事では、各都道府県からチエアスキーの方がみえて盛大であった。山本理事の研修会班でサポートを依頼したところ、16 名中 14 名が手伝ってくれるという状況で、指導員側も興味を示しており、うまくいっている。神奈川県は連盟としても先行してハンディキャップに取り組んでいるため、全国から注目を集めている実態がある。

今後、村上委員長らと、運営体制及び資金の問題についての課題を整理して、来年に進みたい。

iii スノーボード部（片総務本部長）

鈴木理事の退任問題で組織が弱体化してしまったが、専門員が集まって検討し、これまでの反省と来年度に向けての希望について望月専門員から書面が提出された。スノーボードは、大会をやれば人は集まるが、一方で、指導員の体制、研修会及びライセンスの問題に大きな不備があり、手つかずの状態にあり、放置すれば、消滅の可能性もあるので、参考にされたい。

ここで、山田専務理事から、佐々木 S A J 理事に対し、F I S 公認のスノーボード選手権大会の来季も開催予定について質問があり、開催の旨の回答があった。重ねて、この行事については、スノーボードの柱の行事なので開催したいが、開催経費と事業収入に 50 万円の差がある。ほとんど県外の選手のために行っている状況にあるので、できれば参加費を 1,000～1,500 円値上げしてもらって、開催したら参加者は減少しないかとの質問には、今年はオリンピックの開催と重なって十分に協力できなかった

たが、来季は国内のＡ・Ｂも入れる方向で検討しており、ＦＩＳ登録者という制限も撤廃する方針なので、かなり参加者は増えると思うとの回答があった。

また、佐々木ＳＡＪ理事からＳＡＪの総務及び競技専門員の協力方について依頼があり、善処することとした。

エ その他（片総務本部長）

野地理事が進めていた神奈川新聞との連携は、ようやく道筋が開けて、データ等を送れば新聞に掲載されるようなところまでいっている。

オ 資金運用状況（上田理事）

３月末の現預金残高は、１４,３１４,３７４円で、収入は年度累積５９,８０５,６４７円で、予算に対する進捗率は９９.８％であり、これ以上の収入項目はないと思われる。次に、支出は年度累積で３９,４２８,８０９円で進捗率６６.７％であるが、仮払金が累積で１,４００万円程度あり、これが事業費に振り分けられることになると思われる。

昨年も、同時期に１,４００万円程度の残金があり、今年はあと、広報委員会の５０万円、一般管理費の６０万円、ＳＡＪ支払残（Ｂ・Ｃ級・準指登録分）１５０万円を含め三、四百万円。未収金は、協賛金の一部３０万円程度ある。この時期の支出で昨年一番大きかったのが積立金３６０万円で、今年は予算上１６０万円となっているが、昨年からの繰越が７００万円で今年の繰越が８００～９００万円くらいになるので、積立金の差の２００万円がそれに見合うということで、詳細のつめには入っていないが、昨年と同じくらいの財政状況になるのではないかと予測である。

３）審議事項

（１）会計仮決算状況について

まず、上田総務理事から、全体予算についての仮決算状況について報告があり、続いて各部の状況について、担当の早川（教育本部）、平沢（競技本部）の各総務理事から報告がなされ、予算に対して５％以上の増減のあった事業については、理由書を添付すること、教育と競技で決算書の書式が異なるので統一書式を上田理事が作成し、その中には収入実績及び人数欄を設けるよう決定し、内容については新たに収支報告される事業を含めさらに精査するよう決定した。

①会計全般（上田理事）

まず、収入の部で、基本財産の運用に関連して、定期預金の問題で、今までペイオフの関係で、基本財産の１億円を１０銀行に分けて運用していたが、銀行の統合が進み、みずほに３千万円、三井住友に２千万円と集中し始めているので、６月に４千万円分の定期預金が満期となるため、預金先について相談したいとの発言があり、協議した結果、少なくとも基本財産の６千万円は、１千万円ずつに分ける必要があり、郵便局や地方銀行、信用金庫等を利用することとし、預入先については専務及び常務理事と相談の上選定することとした。

加盟団体会費の団体数については、登録担当理事と認識に差があるので、後日詳細につめる予定である。

事業費については、後ほど各部から詳細な報告があると思うが、収入総額としては４９,５９７,９７９円、１００.６％という結果で、普及振興に関しては１２３％、スキー技術に係る調査研究については南関ブロックの研修強化分配金が多かった。大会事業については、進捗率が４４.５％なのでこれからつめに入っていく。指導員の育成事業も５８.２％ということで、これは

有資格者の登録料を振り替えると大きく変わってくるので最終で調整したい。登録料は、一般登録 6,350 人、高校生 263 人、指導員登録料が先ほどの育成事業費と振り分けになるところで後日調整する。検定員登録 1,634 人、パトロール 92 人、社体が 2 人等ということで、進捗率 336%は指導員登録料の関係である。その他事業収入としては、ワッペン、バッジが 60 万円の予算のところ 84 万円で、これまで教育で扱っていた一部物品が総務に移行した分も含まれる。

補助金については、はぼ 90%で 3,556,890 円。

広告料収入は、2,390,000 円の収入で 99.6%。

雑収入が、55 万円の予算のところ 44 万 6,000 円で、雑収入の主なものは手続要領の販売分と JOC のスポーツマンカードなどである。

収入総額では、99.8%とほぼ予算を達成しているといえる。

次に、支出の部は、事業費について仮払い等があるのでこの後詰めていくので省略し、管理費の給料手当が 270 万円の予算に 254 万円の支出で、進捗率 94.1%であるが、2 ヶ月分残しているので、若干オーバーすると思われる。事務局にはかなり無理を言っているのそのためということか。福利厚生費は 45.7%で役員の慶弔費は今年度は出ていない。旅費交通費は 56.8%、通信運搬費が 3 月時点で 100 万円の予算のところ 101 万円とオーバーしている。広告宣伝費は支出 0。慶弔費は 10 万円の予算に 19 万の支出で、オリンピック激励費に 15 万円と上越で旗門審判員が選手に当たって骨折をされたので見舞金 3 万円である。会議費が 116 万円の予算に対し 30 万円と進捗率が 25.9%と上がっていない。特に、理事会が毎月予定されているにもかかわらず、5 万円しか支出されていない。また、規約規定、顧問参与協会長、協会代表者各部会議は開催の予定なし。担当理事には至急清算されるよう要請があった。水道光熱費は 12 万円の予算に対してすでに 12 万 2,000 円とオーバーであと 2 ヶ月でもう少しオーバーする。消耗品費は、一般消耗品費は 20 万円に対して 13 万 2,000 円と問題ないが、備品は 180 万円に対して 193 万 9,000 円とオーバーしている。内訳は、ゼッケン、ドリル、ランチ、ベスト、トランシーバーであるがこれ以上の支出はない。租税公課については収入印紙代 1,000 円のほかまだ支出していないが、固定資産税の支出が予定されている。支払手数料 3 万円に対し 43,923 円で、ほとんどが振込手数料である。賃借料はコピー機で、40 万円のところ 41 万であと 2 ヶ月で 50 万円ぐらいになるが、オーバーの理由はコピー機の契約内容をネットワーク対応に変更したためレンタル料があがったことによる。事務所管理費は、ほぼ予算どおり進捗している。支払保険料については、支出はしているが支払科目に算入されていないので調査中である。事務用品費は 10 万円のところ 15 万 2,000 円とオーバー。印刷費は 220 万円のところ 200 万 4,000 円、91.1%とよいところと思われる。負担金支出は 97.5%、395,000 円の支出。雑費の 2 万円に対して 127,765 円は詳細を確認中である。渉外費は 15 万円のところ 84,000 円、56.1%。

固定資産取得支出は、消耗品費のなかで、備品を取得しているのでなし（20 万円以下）。

特定預金支出は、まだ支出していないが積立金が 100 万円、事務所修繕積立金が 10 万円、70 周年記念行事積立金が 50 万円で、これは今月支出する予定である。予備費には手をつけていない。

総支出は、予算 56,143,700 円に対して、53,523,329 円というのが 3 月までの決算内容である。事業支出については各本部と付け合せをして調整する。

トータルでは、大きな支出がなければ昨年よりは若干の繰越金の増加が見込まれ、合計で800～900万円ぐらいの繰り越しとなると思われる。

②教育本部（早川理事）

教育本部部会及び同拡大部会については、決算額が上がってきていないが、それぞれ8万円、19万円程度という概算は出ているとの事。養成講習会は予算50万円に対して554,575円の支出で54,575円の赤字、中央研修会は、予算13万円に対して212,740円の支出で82,740円の赤字だが、当初2名分の予算のところに2名追加する旨理事会で承認を得ている。南関東ブロック技術員研修会については、210万円の予算に対して247万2,000円で37万2,000円の赤字であるが、これは専門員68名中58名出席で予算編成をしたところ65名出席ということで差が生じてしまった。今後、全員参加を念頭に予算を組むこととした。北海道事業についてはプロジェクトの分の取り扱いが未定なので、清算できていなかったが、これを県民スキーに繰り入れることとし、早急に決算することとした。車山II SAKスキー技術選手権は、決算額2,049,902円に千葉からの負担金が入ってしまっているようなので早急に調査することとした。車山の専門員強化合宿A・Bについては、Aにデモが2名来るということで人数を増やし、同合宿Bの分も含めて執行した。また、車山IIIの指導員養成講習会Dには、これまでのパソコン入力費用等も入っているので12万6,000円の赤字となっており、会計処理上は、養成講習会全体で合計するので問題はないとの事。車山Vの指導員研修会Eで15万7,000円の赤字が出ているのは、参加者が多かったからで、BC級検定員検定との講師の振り分けがうまくいかなかったとの事。

五竜IVの環富士山スキー技術選手権大会は、当初予算にない新規事業であり、収入63万円、支出65万5,311円ということで、収支のバランスも取れており、差額の25,311円を新規事業雑損で支出処理して、来年度から正規に予算化することとし、同席した監事も同意見であった。

③競技本部（平沢理事）

今期予算は、評議員会資料の予算額、今期実績には提出された決算書の数字、未は未清算のものである。

アルペンの総合合宿Iとジュニア強化合宿は重複しているので、ジュニアの方で実績計上している。国体予選については357万円の予算に対して、423万6,000円の実績であるが、当初予算に比べて役員の数が増えた結果と言え、またマスターズで18万9,000円のストラップ代が入っている。県スキー選手権大会は199万5,000円の予算に対し、227万9,000円の実績で、30万円のストラップ代が含まれている。旗門審判員、セッター検定会は他行事中で開催したため費用が発生しなかった。国体スキー競技会は、459万4,000円の予算に対し、3,711,279円の実績。ジュニアオリンピックスキー競技会は役員を派遣しなかったため、実績なし。SAK競技者管理登録は現在作業中なので未清算。全中大会への役員派遣は、予算化していなかったが役員を1名派遣したので60,900円の実績。マスターズ全日本大会派遣は予算8万円に対し31,960円の実績だが、確認した範囲では、交通費だけの計上なので自宅作業等があれば実績に追加されるかも知れないとの事。

ノルディックは、夏期ローラー合宿が予算に計上されていなかったもので、実績だけを計上したが、後ほど精査する。強化合宿兼新人講習会は、25万7,000円の予算に対して323,095円の実績で、これについては以前の理事会で役員1名追加を承認されており、プラス7万円で

予定通りの支出となる。県スキー選手権大会は、参加者がなく中止。クラブ対抗駅伝大会は5月実施予定。

スノーボードは、指導員養成講習会が五竜行事8万 3,320 円の決算はあるが車山IIIの行事の決算書が見当たらず合計額が算出できなかった。会計上も仮払い状態との事で後日精査する予定。指導員講習検定会は、22万 6,000 円の予算に対して、21万 9,995 円の実績。指導員研修会は、五竜の4万 1,090 円、1回分だけを計上し、車山IIIでは参加者が少なかったののでその分は指導員講習検定会にまとめて決算することとした。指導員検定会は中止。F I S 南関大会は、163万 7,000 円の予算に対し 177万 5,359 円の実績。第2回技術選手権大会は予算計上がなく実績が 35万 4,106 円。アルペン合宿、S A J 指導員講習検定会派遣、S A J 指導員研修会派遣は中止。S A J スノーボード選手権大会の役員派遣は、8万円の予算に対し 10万 7,400 円の実績。ハーフパイプジャッジ認定会は中止。

フリースタイルは、県モーグル・キャンプが中止。県モーグル競技会は 138 万円の予算に対し 144万 1,168 円の実績。

共通予算として、競技本部及び専門委員会の部会費については、まだ清算が終了していないが、予算内に収まる見通しである。

山田専務理事から、概算で収支のバランスが取れていると思われるが、決算報告書の書式を少し工夫してそのあたりがわかるようにとの発言があった。

④総務本部（上田理事）

先に会計全般で報告した管理費の部分がそれに当たるので省略。

ここで山田専務理事から、会計状況報告書で前年度対比を行い、大きくなるいがあった場合には、チェック可能な形にしてほしい旨の依頼があり、会計担当理事において了解された。

（2）来季に対する要望事項について

山田専務理事から、来季も今季と同じ事業を踏襲していくのであれば、このまま予算を編成すればよいが、各行事の内容見直し、教育本部の環富士山選手権大会のような新規事業、備品購入等来季に対し要望があれば出されたいとの発言があり、まず、次の提案があった。

①スノーボード部の設置について

これまで、スノーボードは教育、競技両本部にまたがって事業を行ってきたが、これを両本部から離してボード部をつくり、その中でボードの教育も競技も行っていくという形にしてはどうか。役員選挙も近いことから、担当の理事は指名しないで、総務の理事がセクレタリーとして付き、現場は、専門員で組織したボード委員会を下部組織として設置し、その委員長がすべて取り仕切り、総務の理事がサポートを行うということで、我々があまり介入せず、ボードはボードの委員会の中で運営する形にした方がスムーズに行くのではないかと思うとの提案があり、徳田監事から、今季のボード行事の半分为中止というきわめて異常な事態だが、先ほどの望月氏の文書を見て少し安心したが、連盟として、彼らの活動にどこまで介入するかを検討してほしいと考えている。多分、半分为中止では評議員会は大変なので覚悟が必要である、との意見があった。ボードに関しては、S A J の対応が非常にまずい。介入しないと言ったのは、スキヤーのマインドでボーダーを縛らないということで、運営面ではS A K として一体なので、きちんと補助はする意味であるとの答弁があった。また、担当の理事は立てるべきとの意見もあったが、競技と教育の両方から理事を出すのは難しい。問題の多いのは教育と登録関係なので総務理事を付けるということにしたい。また、行事はスキーと一緒に開催しなければ運

営は難しい等の議論もあったが、承認された。

②教育本部の参加費負担の件について

三塚教育本部長から、全日本デモンストレーター選考会参加費2名分及びカービングスキー選手権大会参加費5名分について、すでに終わった行事への参加費ではあるが承認されたい旨の提案があり、審議の結果、承認された。この問題は協議本部にとどまらず、競技本部に大きな影響がある問題なので、派遣する大会について明確な選別が必要であるとの意見があった。

③新規事業を含めた日程について

三塚教育本部長から、環富士山を含めて毎週日程が詰まっており、どうしたら参加者を増やせるか検討し、きめの細かい日程を組みたいと考えているが、研修会が12月から始まるが日程はどうかとの質問があり、山田専務理事から、都連が南関ブロックの研修会を神奈川に任せると言ったというので、11月の雪のない時期ではなく12月にやりたい。そうすると、車山の雪付けの時期が遅れることなどから、北海道行事の後のクリスマスに車山の研修会をやりようと考えているとの答弁があり、国体、県総体の日程が決まればおのずから決まってくるので、細かい日程調整は、環富士山も含め部会の中で行うこととし、この日程について5月の評議員会で周知することとした。

④県総合体育大会の会場について

菊地競技本部長から、来年の県総体の日程が2月28日から3月2日との発表があった。

次に、県スポーツ課から会場変更の決定の理事会通知を早急に提出する旨の依頼があったとの報告があり、片常務理事から、五竜への会場変更については既に理事会決定しており、その旨スポーツ課への報告も済んでおり、下見にもいっているとの答弁があったが、県の方で正式決定と捉えていないようなので、改めて県総体の会場を第1候補五竜、第2候補岩岳に変更することで決定を確認し、改めて文書で県教育委員会に伝えることとした。また、この件については、大きな問題なので競技本部での対応ではなく専務または常務理事を対応窓口とすることとした。

⑤競技本部の新規事業について

菊地競技本部長から、まだ検討段階だが新規事業として、フリースタイルのスキークロスを検討しているが、そこそこ選手がくると思うがレベルが下がった時の怪我が心配だとの発言があった。

⑥クラブ対抗戦を含めた競技の普及について

古郡副会長から、クラブ対抗戦の参加チームが伸び悩んでおり、ポイント制の競技嗜好ではなく、お祭りのような考え方を導入してはどうかとの発言があり、山田専務理事から、経理、登録、総務のIT化等急激に変革が進み、広報・ハンディキャップ委員会等が設置されサービスが充実してきた反面経費がかさんでいる。今年は何とか昨年並みできたが、教育の1級バッジテスト合格者が往時の5分の1にまで減ってきている。教育の大きな収入の柱である準指検定会が必ず衰退していくと考える。研修会も高齢化が進んでいく。そういう中で、県スキー連盟がどの方向へ進んでいくのか。小さな執行部にするか、収益の上がる事業を行い、これまでのサービスを維持していくかのどちらかである。後者を選択するとなれば、今後教育では収益を上げる事業は難しい。競技会で収益を上げていかなければならないと考えている。ただ、県のグランプリレースを大切にしていくと現在のメンバーでは今の事業の維持管理で手一杯なのかと思う。一面、古郡副会長のクラブ対抗戦の発言にもあったように、レースの初心者として

次の目標を探したいという選手が出てくることを期待しますと、グランプリレースの次のクラスの大会というものを行っていけばかなりの収益が上がるのではないかと考える。ただ、即、来年度できるかはわからないが、よい例が、今年から取り入れたマスターズのシニアの大会で、評価が高く、拡充を求める声が多くある。また、指導委員会フェスティバルで車山の残雪に 30 秒程度の G S L の旗を立てて、たいしたことはないかと思いきや、300 人がワンピースにヘルメットを着用して参加してくる。この予備軍がたくさんいると思う。教育本部の人も準指、指導員を取ると、目標がなくなってしまうので、それを競技へ導いていけば、かなり収益が上がると思うがどうかとの発言があり、菊池競技本部長から、十分考えていく必要があるが、スタッフが足りないので、チャンピオンシップ以外の大会をシリーズ化するには、競技と教育から人を選抜して企画を立てていくことが必要であるとの答弁があった。

山田専務理事から、クラブ対抗については、年齢を 5 歳刻みにして、ノルディックも含め、夜もパーティをやり、ドローもコンピュータで全員いっぺんにやってしまうなどの工夫をした大会のシリーズ化とポイント化はできないかとの発言があり、菊池競技本部長も、人を集めるのならスラロームよりもスーパー G の難度を下げたものの方が面白いなど前向きな発言があった。また、クラブ対抗の名称が個人エントリーを妨げる印象がある、マスターズを取り込めば参加人員は増える、シリーズ化して車山の指導委員会フェスティバルを最終レースとして表彰式を行うなど、競技の普及活動ということで、そこからチャンピオンシップレースを目標にしていく選手が出てくればいいという考え方、今のチャンピオンシップレースに出てくる人数は着実に減っている所以その下のクラスの大会を考えた方がいいのではないか等の意見が出され、山田専務理事から、評議員会で以上のような新規事業を収支で赤字を出さないような形で考えているが、具体的には決めきれないと報告し、今回の環富士山のような形でやってはどうかとの提案があり、承認された。また、片常務理事から、教育を含め運営のアウトソーシングや名称等いろいろな意味で改革を進めてほしいということであるとの発言があり、山田専務理事から、今の行事の枠を超えていくには誰に委任すればいいかなどの知恵を絞っていかなければ組織の発展はない。これから楽しもうとしている人たちをいかに取り込んでいくかが、これからの課題であるとの発言があった。

菊池競技本部長から、今年度決算で人件費がかさんでいるので、来季は専門員 15 名以内に限定し、役員も 5 名から 4 名に減員して臨みたいとの提案があり、片常務理事から、教育本部でやっている専門員の星取表によるコントロールのノウハウを導入することが望ましいとの意見があり、そのように決定した。

⑦規約規程関係の整理について

片総務本部長から、規約規程委員会は大きな問題がなく開催していない。ブロック制の問題は来季に申し送りをする。総務の旅費規程は道半ばで、まだ不備があるため継続して検討していきたいとの発言があり、了承された。

⑧備品購入計画について

来季の予算編成上必要があるため各部の備品整備要求を以下のとおり受け、取捨選択については専務理事及び常務理事に一任することとした。

i 競技本部

- ・ゼッケン 250 枚（トリコット）
- ・ポンチョ 10 枚

- ・トランシーバー10台プラス現在あるトランシーバー用のビニールケース
- ・バナー（1×3m）2枚
- ・FIS表彰状（ボード用）
- ・ボード用ゼッケン
- ・マグネットシール（（財）神奈川県スキー連盟）
- ・競技用ソフトのバージョンアップ

ii 教育本部

- ・ノートパソコン1台
- ・無線機の補充をしてほしい

iii 総務本部

- ・事務所内LAN
- ・パソコン1式（デスクトップ）
- ・PCA会計財団法人用ソフト
- ・デジカメ1台

⑨積立金の名目について（上田理事）

約1千万円の積立金について、これまで名目が不明確だったので、事務所更新費等としたらどうかという提案があった。今後検討していく。

⑩協賛金について（平沢理事）

野辺山スキー場から、協賛金30万円、冠料20万円を今年度は協賛金30万円、冠料5万円に、来年度は協賛金のみ10万円にしたいとの申し出があり、やむなく承認された。また、野辺山杯の名称についても今後検討していくこととした。

新規協賛企業として、来季から、同和ガリウムワックス販売から5万円、ヘッドのHTMジャパンから10万円の協賛金が入ることとなったとの報告があった。

⑪次回理事会について

5月10日（金）

なお、5月6日までに執行方針を事務局まで提出することとした。

以上、この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人、下記に署名する。

平成13年 月 日

議 長

議事録署名人 印

議事録署名人 印